

# Ciné-là

NEWS

VOL.328

シネラニュース

Fukuoka City  
Public Library  
Movie Hall  
Ciné-là

# 7

July, 2025



【通年上映】

アーカイヴ発見／午前11時の日本映画・アジア映画クラシックス

あの家は黒い

【企画上映】

## ヴィジョン・オブ・マフマルバフ

### アジアの女性映画監督再考 | 第6期:イラン

### 戦後80年:アジアと日本と戦争 | 第1期:戦前・戦中

【料金】 「ヴィジョン・オブ・マフマルバフ」

一般=1,400円／学生(大学生・高校生・中学生・小学生)および各種割引=700円

※以下の方が割引となります(要証明書・会員証原本提示)。①福岡市在住の65歳以上の方／②わたすクラブ会員／③障がい者の方および介護者の方1名

その他の上映

大人=500円／大学生・高校生=400円／中学生・小学生=300円

・福岡市在住の65歳以上の方・わたすクラブ会員=250円(要証明書・会員証原本提示)・障がい者の方および介護者の方1名=無料(要証明書提示)

□ 定員(242席+車椅子席4席)・各回入替制／当日券のみ・各回上映の1時間前から販売(上映開始の30分後まで)

fiaf

【国際フィルム・アーカイヴ連盟】  
FIAFは映画の保存を目的とする国際団体です。  
福岡市総合図書館はFIAFの会員です。

【企画上映】

# ヴィジョン・オブ・マフマルバフ

イランの巨匠モフセン・マフマルバフ率いる「マフマルバフ・ファミリー」。  
紛争の最前線で起きる矛盾と葛藤を描き出す。

7月3日[木]～7月6日[日]

◎すべてデジタル(DCP)上映

特別上映「川との対話」「あの家は黒い」＋トークイベント

7月6日[日]

14:00

「川との対話」上映

14:50-15:25 モフセン・マフマルバフ監督による解説動画(12分予定)＋「あの家は黒い」上映(21分)

15:30-16:15 ショーレ・ゴルバリアン氏によるトークイベント(45分予定)

【ゲスト】ショーレ・ゴルバリアン氏(映画プロデューサー、翻訳家、東京芸術大学大学院映像研究科客員教授)

イラン西部ハマダーン生まれ。モフセン・マフマルバフ監督『サイクリスト』(1989)を皮切りに日本で公開されるイラン映画のほとんどすべての字幕翻訳にかかわる。アミール・ナデリ、アッバス・キアロスタミといった世界を席巻するイラン映画の監督たちの通訳・アシスタントを務める一方、イラン映画を日本に積極的に紹介し、プロデュース作も多数。著書に『映画の旅びと』(みすず書房/2021)、共著書に『アジア映画でく世界を見る』(作品社/2013)、共訳書にキアロスタミほか著『そして映画はつづく』(晶文社/1994)。2020年「芸術を通じて日本とイランとの間の文化交流の促進に多大な貢献を行った」として旭日双光章を受章。



## 川との対話

Talking with Rivers

国同士の対話という寓話的な仕組みを通して、歴史の痛みとこれからを浮き彫りにするシネエッセイ。かつて同じ土地だった隣国イランとアフガニスタンの男性が、川に向かって対話を続ける。男たちは、ソ連侵攻の時代から内戦、タリバン時代、そしてアメリカの興亡とタリバンの復活に至るまで、マフマルバフ・ファミリーの作品を引用しながら語り合う。



「イラン映画を福岡の宝物に」プロジェクト新規寄託作品

監督:モフセン・マフマルバフ 2023/イギリス=イラン/カラー/50分/日本語字幕付き

「あの家は黒い」と2本立て特別上映＋トークイベント

6[日] 14:00

## あの家は黒い

The House Is Black

イラン北西部のタブリーズ近郊にあるハンセン病患者の療養所で撮影され、患者の日常生活を詩的な映像表現で描く。詩人でもあるフルーク・ファロクザードが残した唯一の映画作品でドキュメンタリー映画であり、イランのニューウェーブの先駆けとなった重要な作品と位置づけられている。※本編上映前にモフセン・マフマルバフ監督による解説動画(12分予定)を併映します。



「イラン映画を福岡の宝物に」プロジェクト新規寄託作品

監督:フルーク・ファロクザード 1962/イラン/白黒/21分/日本語字幕付き

6日[日]「川との対話」と2本立て特別上映＋トークイベント

12日[土]17:00「オフ・ザ・リミット」と2本立て上映

## 苦悩のリスト

The List

3[木] 11:00

4[金] 14:00

5[土] 11:00

2021年、アフガニスタンからのアメリカ軍撤退を契機にタリバンが再侵攻を開始。国外脱出しようとする市民で空港はパニックに陥った。7月には全土を掌握したタリバンからの迫害や処刑等、生命の危機に直面したアーティストや映画人を救うための救援グループが発起。モフセン・マフマルバフ監督はじめファミリーも、約800人の「リスト」を元に各所への呼びかけしてゆく中、リストから人数を絞らなければならないという苦渋の選択を迫られる。



「イラン映画を福岡の宝物に」プロジェクト新規寄託作品 監督:ハナ・マフマルバフ

出演:モフセン・マフマルバフ、マルズィエ・メシュキニ、メイサム・マフマルバフ、ハナ・マフマルバフ  
2023/イギリス=アフガニスタン=イラン/カラー/67分/日本語字幕付き/配給:ノンデライコ

## 子どもたちはもう遊ばない

Here Children Do Not Play Together

映画のロケハンでエルサレムを訪れたマフマルバフ監督は「長年続くイスラエルとパレスチナの紛争に解決の糸口はあるのか」を探るために、迷宮のような旧市街を訪ね歩く。街角に佇む老人、パレスチナ系ティーンのダンスグループ、ユダヤ系の若者等、様々な人々に出会ってゆく過程で、エルサレムに住む少数のパレスチナ系とイスラエルという国家の摩擦、そしてその根源的な問題が浮かび上がってくる。

3[木] 14:00

4[金] 11:00

5[土] 14:00

6[日] 11:00



監督:モフセン・マフマルバフ

出演:アリ・ジャデ、ベンジャミン・フライデンバーグ、アディ・ニッセンバウム、エルサレムの市民たち  
2024/イギリス=イスラエル=イラン/カラー/62分/日本語字幕付き/配給:ノンデライコ

【企画上映】

# アジアの女性映画監督再考 | 第6期:イラン

福岡市総合図書館収蔵作品のなかからアジアの女性監督による作品を継続的に紹介しています。

7月9日[水]～13日[日]

◎「あの家は黒い」を除き、35ミリフィルム上映

## オフ・ザ・リミット

Off the Limits

「あの家は黒い」と2本立て上映 12[土] 17:00



国家公務員のハリミは、カオス市に家を買う。ところが泥棒が入り、泥棒を捕まえたハリミは警察に連れていくが、管轄外と言われる。ハリミの住所を管轄する部署を探して、ハリミは右往左往してしまう。女性監督ラクシャン・パニエタマドのデビュー作。社会風刺的な作品で、コメディ的な要素をふんだんに盛り込んでいる。

監督:ラクシャン・パニエタマド 出演:メヘディ・ハシエミ、バルヴァネ・マズミ  
1988/イラン/カラー/92分/日本語・英語字幕付き

## 青いベール

The Blue Veiled

9[水] 14:00

12[土] 14:00



トマト工場を経営するラスールは妻を亡くして一人暮らし。彼は工場でやとった青いベールのノバルという女性に惹かれ、援助を申し出る。ところが娘たちは遺産相続の懸念からラスールの恋には大反対するのだった。イランにおける女性差別や貧富の差などを描いた社会派の作品。

監督:ラクシャン・パニエタマド 出演:エザトラ・エンテザミ、ファテメ・モタマド・アリア  
1995/イラン/カラー/87分/日本語・英語字幕付き

## 街の陰

Under the Skin of the City

10[木] 14:00

13[日] 11:00



主婦のトゥバには3人の子供がいた。長男のアッバスは日本に出稼ぎにいかうと闇でビザを取ろうとし、その支払のために家の権利書を持ってしまふ。トゥバに怒られたアッバスは権利書を取り返そうとするのだが、会社はなくなっていた。急速に自由化が進むテヘランの片隅に生きる貧しい家族をリアルに描く。

監督:ラクシャン・パニエタマド 出演:モハマド・レザ・フルタン、ゴラフ・アディネ  
2001/イラン/カラー/96分/日本語・英語字幕付き

## 母ギーラーネ

Gilaneh

11[金] 14:00

13[日] 14:00



1988年のイラン。ギーラーネの息子のイスマイルも戦争に参加していった。戦争から帰ってきたイスマイルは、イラクの化学兵器により動けない体になっていた。15年の歳月が流れギーラーネは一人で息子の世話を続けていた。現在でもイラン・イラク戦争の後遺症に悩む人々を、高齢の母親ギーラーネに象徴して描いた作品。

監督:ラクシャン・パニエタマド、モフセン・アブドルヴァッハーブ 出演:ファテメ・モタマド・アリア、バフラム・ラードン  
2005/イラン/カラー/84分/日本語・英語字幕付き

【企画上映】

# 戦後80年:アジアと日本と戦争

## 第1期:戦前・戦中

◎すべて福岡市総合図書館収蔵作品  
◎特に表記ないもの35ミリフィルム上映

戦後80年の節目に、日本とアジア各国の双方の視点から戦争を見つめます。

7月16日[水]～7月21日[月祝]、7月24日[木]～7月27日[日]、7月30日[水]

## 支那事変後方記録・上海

17 [木] 14:00 26 [土] 14:00



Shanghai

陸軍省が中国での戦果を記録して戦意昂揚を目して製作した。溝口健二監督「滝の白糸」のカメラマン三木茂が当時の上海、イギリス租界、廃墟となった町や人びとを冷静にとらえている。亀井文夫は三木茂の映像を元に構成・編集をおこなった。戦前のドキュメンタリー映画のなかでも屈指の作品。

監督: 亀井文夫 1938 / 日本 (東宝文化映画部) / 白黒 / 77分

## 陸軍 The Army

16 [水] 14:00 26 [土] 11:00



日野草平による同名小説の映画化。戦争の時代をくぐり抜けてきた日本を、高木家三代の歴史とともに描いた大作である。もともと戦意高揚を狙った作品でもあるが、本作のクライマックスは息子の出征を母(田中絹代)が追いかけるラストシーンにある。このシーンは当時の福岡市で撮影されており、貴重な映像資料でもある。

監督: 木下恵介 出演: 笠智衆、田中絹代 1944 / 日本 (松竹大船) / 白黒 / 87分

## 桃太郎・海の神兵 Momotaro, Sacred Sailors

18 [金] 14:00 20 [日] 11:00



海軍省からの依頼で巨額の製作費と人員を投じ、スマトラのバレンバン攻略における海軍空挺部隊の活躍を、桃太郎の童話になぞって制作された日本初の長編アニメーションで、戦争末期の1945年4月に公開された。のちに、手塚治虫がアニメ制作を志すきっかけになったと語っている。

演出: 瀬尾光世 1944 / 日本 (松竹動画研究所) / 白黒 / 74分

## 族譜 The Genealogy

19 [土] 11:00 30 [水] 11:00



日本統治下の朝鮮半島。大地主ソル・ジニョンは、創氏改名により600年続いた族譜に日本式の新たな姓を書き込むことを拒否する。日本側はソルを説得すれば一気に改名が進むと考え、心優しい青年・谷を派遣する。京城(ソウル)に生まれた梶山季之が1952年に発表した短編小説を、韓国の巨匠イム・ゴンテクが映画化した。

監督: イム・ゴンテク 出演: チュ・ソント、ハミョンジュン 1978 / 韓国 / カラー / 113分 / 韓国 / 日本語字幕付き

## 少年義勇兵 Boys Will Be Boy's, Boys Will Be Men

21 [月祝] 11:00 25 [金] 11:00



1941年、タイ南部の町チュムボンで高校生を中心に義勇軍が組織される。同年12月チュムボンに上陸した日本軍に対し、義勇軍は勇敢に戦った。史実を元にした作品。ただし第二次大戦中タイは中立国であり、日本軍はタイを通過してビルマに向かうために上陸したものだったが、連絡の遅れにより戦闘が勃発した。少年たちの青春をさわやかに描いた感動作。

監督: ユッタナー・ムクダーサニット 出演: ルンラン・アナンタヤ、ウォーヨー・パニットタイバブ 2000 / タイ / カラー / 121分 / 日本語・英語字幕付き

## 五人の斥候兵 Five Scouts

17 [木] 11:00 27 [日] 11:00



日中戦争の最中、最前線への偵察を命じられた斥候兵たちが、敵の舞台に包囲されてしまう…。実話をもとに田坂具隆が戦場におけるヒューマニズムを追求した作品。日本の戦争映画において初めて国内外で芸術性を高く評価された。  
<フィルムの状態が悪く映像・音声の見づらい・聞きづらい箇所があります。あらかじめご了承ください>

監督: 田坂具隆 出演: 小杉勇、見明凡太郎 1938 / 日本 (日活多摩川) / 白黒 / 70分 / 16ミリフィルム上映

## 戦ふ兵隊 Soldiers at the Front

18 [金] 11:00 27 [日] 14:00



陸軍省情報部の後援により制作されたドキュメンタリー。武漢攻略作戦に従事する兵士たちの日常の姿が中心になっており、映画の中に戦闘シーンがない。むしろ歩き疲れた兵士たちと、中国民衆の悲惨な姿が描かれていることで軍の怒りを買い、上映禁止となった。亀井文夫の代表作のひとつ。

監督: 亀井文夫 1938 / 日本 (東宝文化映画部) / 白黒 / 66分 / 16ミリフィルム上映

## あの旗を撃て Dawn of Freedom

19 [土] 14:00 24 [木] 11:00



太平洋戦争中のフィリピン・マニラ。12歳の少年トニーは、車にはねられ歩けなくなる。トニーは日本兵・池島と親しくなり、池島はトニーを軍医に見せ、手術することになる。陸軍省の後援で、ほとんどがフィリピンで撮影されている大作映画。フィリピンの大監督ヘラルド・デ・レオンが協力している。

監督: 阿部豊 出演: 大河内傳次郎、大川平八郎 1944 / 日本 (東宝) / 白黒 / 108分 / 日本語字幕付き

## 神のいない三年間 Three Years Without God

19 [土] 17:00 25 [金] 14:00



1942年。ロサリオの恋人クリスピンは抗日ゲリラになるため村を去る。ある日道に迷った日本兵マスキがロサリオの家にやって来る。酔ったマスキはロサリオを襲うのだが、マスキはロサリオを真剣に愛するようになる。42年から45年までの日本占領下を舞台に、日本軍人とフィリピン女性の和解と愛を描くという貴重な作品。70年代を代表するフィリピン映画の1本。

監督: マリオ・オハラ 出演: ノーラ・オノール、クリストファー・デ・レオン 1976 / フィリピン / カラー / 125分 / 日本語字幕付き

## 無言の丘 Hill of No Return

20 [日] 14:00 30 [水] 14:00



1920年代の台湾。貧しい農婦のアチューとアウェイは、日本人が経営する金山で働き始めるが、生活は過酷なものだった。日本統治下の金山の町を舞台に、そこに生きる大勢の日本人や台湾の人々を赤裸々に描いた大作。本作と「村と爆弾」「バナナ・パラダイス」の三本は、ワン・トン監督が台湾の庶民の歴史を描いた<台湾三部作>として知られている。

監督: ワン・トン 出演: ボン・チアチア、ヤン・クイメイ 1992 / 台湾 / カラー / 175分 / 日本語・英語字幕付き

## アドナン中尉 Lieutenant Adnan

21 [月祝] 14:00 24 [木] 14:00



イギリス植民地時代のマレーシア。幼い頃から利発だったアドナンは、軍隊に入り頭角を現す。1941年12月、小隊を任されたアドナンは、上陸してきた日本軍の残虐行為を目の当たりにし、物資も不足するなか激しい戦闘が始まる。アドナン中尉は実在の人物である。本作はマレーシア国防省が製作し、日本軍によるマレー上陸作戦をマレーシア側の視点から描いている。

監督: アズイス・M・オスマン 出演: ハイリー・オスマン、ウミ・アイダ 2000 / マレーシア / カラー / 133分 / 日本語・英語字幕付き

【通年上映】

## アーカイヴ発見 Discover the Archive

収蔵する香港映画のなかから、有名なホラー映画「霊幻道士」(1985)の原型ともいえる隠れた傑作を上映します。

## 霊幻師弟 人嚇人 The Dead and the Deadly

5 [土] 17:00 26 [土] 17:00

ルーチョは死んだ真似をして、家の財産を横取りしようとするが、仲間にも裏切られて本当に殺されてしまう。ルーチョは兄弟分のチューの元に幽霊となって現れ、チューの肉体を使って復讐しようとする。話題作「トワイライト・ウォリアーズ 決戦!九龍城砦」(2024)での健在ぶりに記憶に新しい、若き日のサム・ハンのアクションも見もの。

監督: ウー・マー 出演: サモ・ハン・キンポー、ウー・マー 1983 / 香港 / カラー / 99分 / 日本語字幕付き / 35ミリフィルム上映



【通年上映】

## 午前11時の日本映画・アジア映画 クラシックス Classics

収蔵作品から、日本とアジアの選りすぐりの古典映画や名作を木曜・金曜・土曜に週替わりで上映します(一部期間を除く)

## 新選組始末記

10 [木] 11:00 11 [金] 11:00 12 [土] 11:00

浪人・山崎(市川雷蔵)は、ある日新選組の近藤勇と出会い、入隊する。内部では粗暴な局長の芹沢を土方が暗殺するなど、謀略に満ちていた。原作は子母澤寛が新選組を取材したルポルタージュで、新選組に関する代表的な資料とされる。数ある新選組映画のなかでも、謀報員として暗躍した山崎丞(すずむ)の視点から見た新選組の姿を描いた傑作。

監督: 三隅研次 出演: 市川雷蔵、城健三郎(若山富三郎) 1963 / 日本 (大映) / カラー / 93分 / 35ミリフィルム上映



|         |                        |                                                                                 |                                                 |
|---------|------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------|
| 1 [火]   | 休 館 日                  |                                                                                 |                                                 |
| 2 [水]   | 休 映 日                  |                                                                                 |                                                 |
| 3 [木]   | 11:00<br>◆苦悩のリスト       | 14:00<br>◆子どもたちはもう遊ばない                                                          |                                                 |
| 4 [金]   | 11:00<br>◆子どもたちはもう遊ばない | 14:00<br>◆苦悩のリスト                                                                |                                                 |
| 5 [土]   | 11:00<br>◆苦悩のリスト       | 14:00<br>◆子どもたちはもう遊ばない                                                          | 17:00<br>★霊幻師弟 人嚇人                              |
| 6 [日]   | 11:00<br>◆子どもたちはもう遊ばない | 14:00<br>◆川との対話<br>あの家は黒い(マフマルバフ解説上映あり)<br>[上映後トーク] ショーレ・ゴルパリアン氏<br>(16:15終了予定) |                                                 |
| 7 [月]   | 休 館 日                  |                                                                                 |                                                 |
| 8 [火]   | 休 映 日                  |                                                                                 |                                                 |
| 9 [水]   |                        | 14:00<br>◇青いベール                                                                 |                                                 |
| 10 [木]  | 11:00<br>☆新選組始末記       | 14:00<br>◇街の陰                                                                   |                                                 |
| 11 [金]  | 11:00<br>☆新選組始末記       | 14:00<br>◇母ギーラーネ                                                                |                                                 |
| 12 [土]  | 11:00<br>☆新選組始末記       | 14:00<br>◇青いベール                                                                 | 17:00<br>◇あの家は黒い<br>(マフマルバフ解説上映あり)<br>オフ・ザ・リミット |
| 13 [日]  | 11:00<br>◇街の陰          | 14:00<br>◇母ギーラーネ                                                                |                                                 |
| 14 [月]  | 休 館 日                  |                                                                                 |                                                 |
| 15 [火]  | 休 映 日                  |                                                                                 |                                                 |
| 16 [水]  |                        | 14:00<br>◇陸軍                                                                    |                                                 |
| 17 [木]  | 11:00<br>◇五人の斥候兵       | 14:00<br>◇支那事変後方記録・上海                                                           |                                                 |
| 18 [金]  | 11:00<br>◇戦ふ兵隊         | 14:00<br>◇桃太郎・海の神兵                                                              |                                                 |
| 19 [土]  | 11:00<br>◇族譜           | 14:00<br>◇あの旗を撃て                                                                | 17:00<br>◇神のいない三年間                              |
| 20 [日]  | 11:00<br>◇桃太郎・海の神兵     | 14:00<br>◇無言の丘                                                                  |                                                 |
| 21 [月祝] | 11:00<br>◇少年義勇兵        | 14:00<br>◇アドナン中尉                                                                |                                                 |
| 22 [火]  | 休 館 日                  |                                                                                 |                                                 |
| 23 [水]  | 休 映 日                  |                                                                                 |                                                 |
| 24 [木]  | 11:00<br>◇あの旗を撃て       | 14:00<br>◇アドナン中尉                                                                |                                                 |
| 25 [金]  | 11:00<br>◇少年義勇兵        | 14:00<br>◇神のいない三年間                                                              |                                                 |
| 26 [土]  | 11:00<br>◇陸軍           | 14:00<br>◇支那事変後方記録・上海                                                           | 17:00<br>★霊幻師弟 人嚇人                              |
| 27 [日]  | 11:00<br>◇五人の斥候兵       | 14:00<br>◇戦ふ兵隊                                                                  |                                                 |
| 28 [月]  | 休 館 日                  |                                                                                 |                                                 |
| 29 [火]  | 休 映 日                  |                                                                                 |                                                 |
| 30 [水]  | 11:00<br>◇族譜           | 14:00<br>◇無言の丘                                                                  |                                                 |
| 31 [木]  | 休 館 日                  |                                                                                 |                                                 |

◆=[企画上映] ヴィジョン・オブ・マフマルバフ

◇=[企画上映] アジアの女性映画監督再考 | 第6期:イラン

◇=[企画上映] 戦後80年:アジアと日本と戦争 | 第1期:戦前・戦中

★=[通年上映] アーカイブ発見

☆=[通年上映] 午前11時の日本映画・アジア映画クラシックス

## [8月のシネラ上映予告]

8/1～ 戦後80年:アジアと日本と戦争 第2期:終戦・戦後

8/6～ 夏休みの映画館

8/20～ EUフィルムデーズ2025

## Column

2025年は終戦から80年の節目になります。7月は、戦前・戦中に作られたり、後年その時期を描いたりしたアジアと日本の映画を横断的に、双方の視点が入り混じるように特集します。この時期は、政治的な意図をもって製作されたプロパガンダ映画が目につきます。ただ、個々の映画を見てみるとただ当局の意図を喧伝するだけではなかったことも見つけることができます。たとえば亀井文夫(1908-1987)による「戦ふ兵隊」(1939)は、軍部の依頼で製作されながら、描き方が厭世的という理由で当時公開中止になってしまいます。

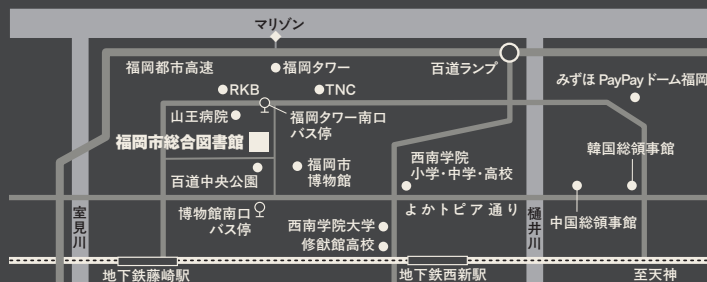
映画はカメラで撮影されます。レンズとフィルムという機械の目をとおしてとらえられた世界は、冷徹なまでに客観的です。撮られたものは、依頼した製作者や、時には作者の意図をも超えてしまうことがあります。これは、映画というメディアに生来備わった重要な性質です。

3期に分けて約30本の映画を上映予定です。そんなにたくさん、遠い過去の出来事を今更古いフィルムで見るなんてと思われるかもしれませんが。今回の特集では記録映画だけではなく、劇映画も多く盛り込みます。そこには脚色も演出もありますし、一見戦争と関係ない作品もあります。勇ましい、もしくは疲れ切った前線を取材できたとしても、そのときの市井の人たちの暮らしというのは、しばしば見落とされます。当時のことは、時間が経ってからでないと語りえないこともあります。フィクションだからこそ伝えられる真実もあるでしょう。ある時点で正義であったことが、後年振り返って別の批判にさらされることもあります。記録された映画は、時代や見る人の解釈によって常に変化します。

日本もアジアの国々も20世紀の後半は、社会のあらゆる側面に戦争の影響を受けつつ、映画を作ってきました。8月には「終戦・戦後」の日本映画を、9月には「その後のアジア、戦争の傷跡」と題して、アジアの映画を中心として、3つの期間に分けました。紛争や戦争はずっと続いています。そのきっかけは20世紀の戦争に端を発するものが少なくありません。7月に上映する「苦悩のリスト」「子どもたちはもう遊ばない」も、問題の源流をたどれば、当時の戦争とその戦後処理の問題がいまだに世界に影響している一例でもあります。

遠い国の、遠い出来事が、地続きであるということと、20世紀半ば、まだ新しいメディアであった映画は負の面でも、正の面でも大きな役割を果たしていたことを知る機会になれば幸いです。

(学芸員・杉原)



## [交通アクセス]

当館の駐車場には限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。市営地下鉄/西新駅または藤崎駅下車徒歩15分 西鉄バス・博多駅、天神、西新から福岡タワー南口または博物館南口下車徒歩5分・藤崎駅から福岡タワー南口下車徒歩5分 ◎所要時間は交通事情により異なります。バス運行時刻、お近くのバス停からのご利用については、西鉄お客様センター(電話:050-3616-2150)へお問い合わせください。

## 福岡市総合図書館 映像ホール・シネラ

Fukuoka City Public Library Movie Hall Ciné-là

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目7番1号

(代表) TEL: 092-852-0600 | FAX: 092-852-0609

うえぶシネラ—<http://www.cinela.com> ⇒

発行:映像ホール・シネラ実行委員会

グリーン購入法に適合している用紙を使用しています

助成: NCF 公益財団法人 西日本シティ財団

